

### PRESS RELEASE

2024 年 6 月 6 日 株式会社 ispace

# ispace EU をルクセンブルク大公国大公殿下他、政府関係者が視察のため来訪月面探査ミッションに臨むマイクロローバーはまもなく完成予定

株式会社 ispace (東京都中央区、代表取締役: 袴田武史、以下 ispace) の欧州法人である ispace EUROPE S.A (以下 ispace EUROPE)は、6月4日(火)、ルクセンブルク大公国大公殿下 (H.R.H. The Grand Duke of Luxembourg)、デレス 経済・中小企業・エネルギー・観光大臣、在ルクセンブルク日本国大使館 松原正浩特命全権大使およびルクセンブルク宇宙機関のマチアス・リンク副 CEO をオフィスに迎え、現在開発が進められている、マイクロローバー(小型月面探査車)の開発進捗を披露いたしました。



ispace EUROPE CEO の Julien-Alexandre Lamamy による開発進捗説明

左からルクセンブルク宇宙機関のマチアス・リンク副 CEO、デレス 経済・中小企業・エネルギー・ 観光大臣、ルクセンブルク大公国大公殿下、在ルクセンブルク日本国大使館 松原正浩特命全権大使

# ispace

ispace EU は、2017 年 3 月にルクセンブルク政府の宇宙資源開発の商業化を支援する SpaceResources.lu イニシアチブとの協力協定に基づき設立され、以来、ルクセンブルク大公国 を欧州における宇宙資源探査と利用の中枢とすべく、LuxIMPULSE プログラムの一環として、ルクセンブルク宇宙機関との共同資金でマイクロローバーの開発を進めてきました。

今回、ルクセンブルク大公国大公殿下をはじめとする一行は、ispace EU の CEO である Julien-Alexandre Lamamy の案内の下、民間月面探査プログラム「HAKUTO-R」ミッション 2 において月面探査を行う予定である、実際のフライトモデルローバーの組立て状況を確認しました。本ローバーは夏頃の完成を以て、いよいよルクセンブルクから日本へ輸送され、RESILIENCE ランダーに搭載し、今冬予定の打ち上げに備えます。



Manufacturing Lab の Clean Room でエンジニアからマイクロローバーの説明を聞く様子

その他にも、ルクセンブルク大公国大公殿下は月面を模したシミュレーション設備で、ローバー操作のデモンストレーションを視察されたり、ミッションコントロールルーム(管制室)で働く ispace エンジニアとの会話を通じて、ルクセンブルクで生まれた新たな技術が、月面探査に挑戦することを称賛されました。

# ispace



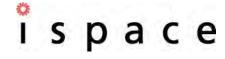
ルクセンブルク大公国大公殿下、政府関係者、および ispace EUROPE の従業員の集合写真

#### ■ ルクセンブルク宇宙機関のマチアス・リンク副 CEO のコメント

「ispace EUROPE の開発現場を視察する機会をいただけたことは大変光栄で、数年間に渡り、チームが成し遂げてきた功績を誇らしく思います。ルクセンブルクで2017年に制定された"宇宙資源の探査及び開発に関する事業活動の促進に関する法律"に基づく最初のミッションの今後に期待しています。|

## ■ ispace EUROPE CEO Julien-Alexandrew Lamamy のコメント

「この度、今冬のミッション 2 挑むマイクロローバー開発を進めている ispace EUROPE のオフィスにて、私たちの従業員と共に、ルクセンブルク大公国大公殿下および政府関係者、在ルクセンブルク日本国大使、他をお迎えすることが出来て、非常に光栄です。ルクセンブルク発の技術が、今後の宇宙産業の盛り上がりに寄与できることを確信するとともに、ルクセンブルク及び日本両政府の関係強化につながる機会となれたことを嬉しく思います。」



#### ■ 株式会社 ispace (https://ispace-inc.com/jpn/)について

「Expand our planet. Expand our future. ~人類の生活圏を宇宙に広げ、持続性のある世界へ~」をビジョンに掲げ、月面資源開発に取り組んでいる宇宙スタートアップ企業。日本、ルクセンブルク、アメリカの 3 拠点で活動し、現在約 300 名のスタッフが在籍。2010 年に設立し、Google Lunar XPRIZE レースの最終選考に残った 5 チームのうちの 1 チームである「HAKUTO」を運営した。月への高頻度かつ低コストの輸送サービスを提供することを目的とした小型のランダー(月着陸船)と、月探査用のローバー(月面探査車)を開発。民間企業が月でビジネスを行うためのゲートウェイとなることを目指し、月市場への参入をサポートするための月データビジネスコンセプトの立ち上げも行う。2022 年 12 月 11 日には SpaceX の Falcon 15 を使用し、同社初となるミッション 15 のランダーの打ち上げを完了。続く 15 の 15 と 15 の 15 の 15 と 15 と 15 の 15 と 15 と 15 の 15 と 15 の 15 と 15 と 15 と 15 の 15 と 15 と 15 に 15 の 15 と 15 と 15 と 15 と 15 と 15 の 15 と 15 と

ミッション 1 の目的は、ランダーの設計および技術の検証と、月面輸送サービスと月面データサービスの提供という事業モデルの検証および強化であり、ミッション 1 マイルストーンの 10 段階の内 Success8 まで成功を収めることができ、Success9 中においても、着陸シーケンス中のデータも含め月面着陸ミッションを実現する上での貴重なデータやノウハウなどを獲得することに成功。ミッション 1 で得られたデータやノウハウは、後続するミッション 2 ヘフィードバックされる予定。更にミッション 3 では、より精度を高めた月面輸送サービスの提供によって NASA が行う「アルテミス計画」にも貢献する計画。

・ 2024 年 6 月時点の想定

■ 2024年6月時点の想定

₩ 2024 年 6 月時点の想定

【報道関係者からの問い合わせ先:】

ispace, 広報

Email: publicrelations@ispace-inc.com